

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）



<p>耳下腺などの唾液腺が急に腫れてくることを特徴とする疾患である。合併症としては無菌性髄膜炎が多く、また不可逆的な難聴の原因としても注意すべき疾患である。成人のり患では精巣炎、卵巣炎などの合併がある。春から夏にかけて発生が多い。幼児から学童に好発し、保育所、幼稚園、小学校での流行が多い。</p>	
病原体	ムンプスウイルス
潜伏期間	主に 16～18 日 (12～25 日)
感染経路・ 感染期間	飛沫感染、接触感染。 耳下腺などの唾液腺が腫脹する 1～2 日前から腫脹 5 日後までが最もウイルス排出量が多く、他への感染の可能性が高い。
症状・予後	全身の感染症だが耳下腺の腫脹が主症状で、顎下腺なども腫れる。腫れは 2～3 日でピークに達し、3～7 日間、長くても 10 日間で消える。痛みを伴い、酸っぱいものを飲食すると強くなる。また、約 100 人に 1 人が無菌性髄膜炎を、500～1,000 人に 1 人が回復不能な片側性の難聴を、3,000～5,000 人に 1 人が急性脳炎を併発する。
診断	臨床症状により診断されるが、確定のためには血液での抗体検査、ウイルス遺伝子診断、ウイルスの分離など。
治療	有効な治療薬はなく、対症療法が行われる。
予防法・ワクチン	ワクチンによる予防が可能。ワクチンによる無菌性髄膜炎は 2,000～3,000 人に 1 人、急性脳炎の発症率は約 25 万人に 1 人と、自然感染時に比べ低い。 飛沫感染、接触感染として一般の予防法を励行するが、不顕性感染があり、発症者の隔離だけでは流行を阻止することはできない。
登校(園)の基準	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで出席停止とする。